

●編集顧問／牧野永城、菅原克彦、阿部令彦、出月康夫、武藤輝一、田島知郎、萩原 優、北島政樹、炭山嘉伸

●編集委員／跡見 裕、畠山勝義、桑野博行、宮崎 勝、島津元秀、渡邊聡明

●編集同人／佐野圭司、近藤芳夫、阪口周吉、鈴木章夫、秋山 洋、塩谷信幸、諏訪邦夫、岡崎春雄、松元輝夫、折田薫三、細田泰之

「天災は忘れた頃に来る」という警句で有名な、物理学者であり随筆家でもある寺田寅彦の随筆に「科学者とあたま」と題するものがある。

ある老科学者が次のようなことを彼に語って聞かせたという。『科学者になるにはあたまがよくなくてはいけない』これは普通世人の口にする一つの命題である。これはある意味ではほんとうだと思われる。しかし、一方でまた『科学者はあたまが悪くなくてはいけない』という命題も、ある意味ではやはりほんとうである。そうしてこの後のほうの命題は、それを指摘し解説する人が比較的少数である。」

この言葉を聞いて皆さんはどのように思われるであろうか。彼が何を訴えたかったかを詳しく知りたい人は岩波文庫の寺田寅彦随筆集第4巻をひもといて頂きたい。「あたま」という言葉の定義は曖昧模糊としてはいるが、普通「あたまがよい人」は観察力、理解力、分析力、判断力、推理力などが豊かであり、「あたまが悪い人」に比べて早く正確に科学研究を成し遂げることができる。しかし、一方で科学者は「普通の頭の悪い人よりも、もっとも物わりの悪いのみ込みの悪い田舎者であり朴念仁でなければならない」と寺田はいう。なぜならば、未知の前途多難な、結果の出ないかもしれない研究に突入し没頭するには「人間の頭の力の限界を自覚して大自然の前に愚かな赤裸の自分を投げ出し、そうしてただ大自然の直接の教えにのみ傾聴する覚悟」が必要であり、「あたまのよい人」にはそのような覚悟や行為はできないというのである。この随筆は、科学者の本質についての自らの考えを老科学者の姿を借りて語ったものであるが、科学と芸術が渾然一体となった人格の象徴ともいうべき寺田寅彦ならではの評論である。このように、一見相反する命題が実は1つのものの互いに対立し共存する二面性を表現しているという事象はほかにもみられる。「大賢は大愚なるがごとし」の諺もその1つであろう。われわれが行っている医療も、「福祉と市場原理」「パートナーリズムとインフォームド・コンセント」「標準化と個別化」など様々な相反する命題にさらされている。科学者は頭がよいと同時に悪くなくてはならない。このことと同様に、医師はこうした二律背反的事象を1つのものとして融合させ併せ持つことができるであろうか。科学よりも難しい問題のように思える。

(島津元秀)

臨床外科 (第63巻第11号 増刊号)

発行 株式会社 医学書院
代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23
社内案内 (03) 3817-5600
販売部直通 (03) 3817-5659・5660
振替口座 00170-9-96693 番

2008年10月22日発行(通常号毎月1回20日発行)

本号特別定価 8,610 円 (本体 8,200 円+税 5%)
2008年 年ぎめ予約購読料 38,960 円(税込)
(送料弊社負担・増刊号を含む13冊)

本誌編集室直通 (03) 3817-5708
ファクシミリ (03) 3815-7802
E-mail: ringe@igaku-shoin.co.jp

担当 田村・阿部・中田
印刷所 三報社印刷(株) 電話 (03) 3637-0005
広告申込所 (株)医薬広告社 電話 (03) 3814-1971

- ・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2008, Printed in Japan
- ・ 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化を含む)に関する許諾権は医学書院が保有しています。
- ・ JICLS < (株)日本著作出版権管理システム委託出版物 >
本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き、禁じられています。本誌を複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(03-3817-5670)の許諾を得てください。
- ・ 医学書院ホームページ(インターネット)は <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。
- ・ 「臨床外科」ホームページは <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/ringe/> です。